

トピックス

国外原産の淡水巻貝「コモチカワツボ」 情報募集中

昨年、ニュージーランド原産の小型巻貝コモチカワツボが長野県内でも見つかって話題になりました。この巻貝は殻長5mmほどでカワニナの稚貝と一見類似していますが、殻口のかたちが円形（壺型）なので注意すれば見分けることができます。すでに北海道、本州、九州と日本全国に広がりをみせていますが、長野県内では、天竜川水系の辰野町、犀川水系の塩尻市、



玉石にびっしりと付着した
コモチカワツボ

松本市、波田町、安曇野市で確認されており、小河川や水路を中心にさらに分布拡大のおそれ

があります。影響については未解明の点が多いのですが、上位捕食者となるホタルや魚類の成長・繁殖に悪影響を及ぼすという指摘があります。魚介類（養殖）や水草、人の漁具や長靴に付着して移動する可能性が高く、拡散防止に細心の注意を払う必要があります。当研究所ではコモチカワツボの分布状況について広く情報を集めております。ご協力のほどよろしく申し上げます。



コモチカワツボの殻口は
円に近い長円型
(カワニナ幼貝は上部が細くなる涙型)

(北野 聡 kanken-shizen@pref.nagano.jp)

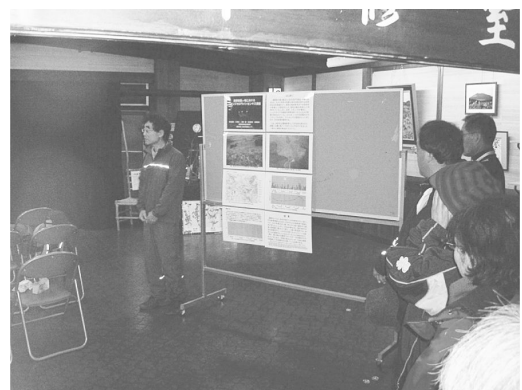
自然ふれあい講座を行いました

迫りくるシカ～拡大する生息地（霧ヶ峰八島ヶ原湿原）

10月4日(土) 17:30～21:00 参加者17名

近年、長野県ではニホンジカが増加して生息地が拡大し、農林業被害だけでなく、樹木の皮や高山植物が食べられるなど、自然植生にも影響が出始めています。霧ヶ峰でもニッコウキスゲの花芽が食べられたり、高層湿原への入り込みがみられます。今回の観察会では、夜間に八島ヶ原湿原を1周するコースを歩き、湿原にシカが入り込んでいないかを観察しました。ライトを照らすとシカの目が光るので、遠くにいるシカも見つけることができます。その結果、湿原に1頭、まわりの森林などで合計10頭ほどのシカを発見することができました。またオスジカの発情の声を聞くこともできました。このような観察会がシカの問題を考える機会になればと思います。

(岸元良輔・北野 聡 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



歩く前にニホンジカの説明

学会いろいろ

研究所と関わりのある学会を紹介します！

日本気象学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/index.html>

社団法人日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかることを目的として、1882年に創立された歴史のある学会です。現在の会員数は4,300名を超え、学会員は研究者のほか、学校の先生や気象予報士の方、テレビのお天気キャスターなど多岐にわたっています。年に2回、春と秋に大会（いわゆる学会発表の場）が開催され、4日間にわたり口頭発表、ポスター発表、シンポジウムなどが行われます。そこでは、地球の大気循環のようなグローバルスケールの研究から、雲や雪の結晶のようなマイクロスケールの研究まで、幅広い分野の最新の成果が多数紹介され、議論が熱心に行われます。

私は、2008年の春の大会（横浜市で5月に開催）に参加し、裾花川（長野市）から流れ出る山風の数値シミュレーションの結果についてポスター発表をしました。山風の現象に興味ある方、数値シミュレーションが得意の方、長野のことにやたら詳しい方など、多くの方と議論することができ大変有意義でした。学会でいただいた意見を参考に今後の研究に生かしていきたいと思っています。

また、学会のホームページ（上記アドレス）では、日本語の「天気」、英語の「気象集誌」、「SOLA」という学会誌が誰でも閲覧できるようになっているほか、気象学の用語集や質問箱など、気象に興味のある方にとって役立つ情報がたくさんあります。ぜひご覧ください。

（浜田 崇 kanken-junkan@pref.nagano.jp）



気象学会発行の学会誌、書籍など

クマ類の出没メカニズムに関する国際ワークショップ

独立行政法人森林総合研究所が主催して、標記の国際ワークショップが京都で開催されました。11月21日は専門家向けのプログラムとして「クマ類の出没メカニズム」に関する研究会が開催され、翌22日は一般向けに「森の外でクマさんと出遭うわけ」と題して公開シンポジウムが開催されました。海外から4名、国内から2名の研究者の招聘があり、研究会では5つの招待講演と公募による11の一般講演がありました。招待講演では、海外の事例としてアメリカクロクマと台湾のツキノワグマの研究が紹介されました。一般講演では、長野県のツキノワグマの保護管理計画と2006年の大量出没について紹介するとともに、共同研究としてクマの体毛の安定同位体から分析した出没グマの食性の特徴について発表しました。その他、広島での出没グマの栄養状態や食性、栃木県足尾でのクマの行動圏・食性・食物量・フェノロジーの関係性の総合的な調査、東北地方でのブナの結実とクマの出没との関係などの講演がありました。公開シンポジウムでは、メキシコのアメリカクロクマが干ばつにより住宅地に出没してしまうことや、日本でクマが人里に出没するメカニズムが紹介されました。

（岸元良輔 kanken-shizen@pref.nagano.jp）



研究会での発表の様子